

2 事業の概要

(1) 藤学園の未来共創ビジョン

藤学園は、2025年に大きな区切りとなる学園創設100周年を迎えますが、その歩みは、カトリック札幌教区初代教区長ヴェンセスラウス・キノルド司教が、「北海道の未来は女子教育にある」との確信のもとドイツから招聘したシスターたちによって、1925年に開設した北海道初の5年制の札幌藤高等女学校に始まります。爾来、幼稚園・中学校・高等学校・大学を擁する総合学園として今日を迎えています。

100周年を越えて次代に繋がる第2世紀を見据えて、園児・生徒・学生・教職員・保護者・卒業生が共に学園の未来を創造することを目指して、2030年までの学園のビジョンとして「藤学園の未来共創ビジョン」を定めました。

◇◇◇藤学園の未来共創ビジョン◇◇◇

◎ 未来の平和と共生社会に貢献する人材育成

- 未来を切り拓く藤～学びから創造力を養います
- 地域とつながる藤～社会貢献を推進します
- 世界ではばたく藤～国際理解・交流を深めます
- 個性の花咲く藤～チャレンジを応援します
- 信頼される藤～学生・生徒・園児を守る環境を整えます

◎ 具体的目標

- キリスト教的人間観に基づく人間教育
- 共生社会に必要な人間理解と国際理解
- 子どもたちの健全な成長に貢献
- 世界の貧困・飢餓・難民問題に貢献できる人材育成
- 母なる地球の環境に対する意識を涵養
- 卒業生・保護者との連携強化

未来を担う女性、未来を育てる女性として、一人ひとりに与えられた個性豊かな能力を開花させるよう、心豊かで自立心に富み、創造性と知性に溢れた人間を育てます。

幼稚園・中学校・高等学校・大学のそれぞれの成長段階に応じた具体的目標を立て、その実現を目指します。

(2) 学園の事業

藤学園が開設・運営を行ってきた「旭川藤女子高等学校」及び「北見藤女子高等学校」は、先に報告いたしました通り、2018年度末をもって、学校法人北海道カトリック学園への経営移譲を完了しています。新しい設置法人のもと、それぞれ「旭川藤星高等学校」、「北見藤高等学校」として、男女共学校となり定員を上回る新入生を迎えての再スタートとなりました。

また、旭川藤幼稚園については、2019年度末をもって、同じく学校法人北海道カトリック学園に経営を移譲いたしました。

本学園の設置校では、藤女子大学人間生活学部保育学科を改組し、新たに人間生活学部子ども教育学科の設置届出を文部科学省に受理され、2020年4月1日から小学校教諭免許課程を加えた新しい教育組織を編制しています。

こうした学園設置校の変更及び昨年度公布された改正私立学校法に対応するため、本学園の寄附行為について所定の改正を行いました。

(3) 藤女子大学

2017年度に制定した「藤女子大学未来共創ビジョン」のもと、第Ⅰ期アクションプランの最終年度である2019年度は、自己点検評価委員会において個々の達成状況を評価し、学内外の諸環境の変化等をも踏まえて、第Ⅱ期アクションプランを策定いたしました。

また、本学の中長期を見据えた教育組織等を構想し、建学の理念と教育目的を実現するための具体案を策定することを目的として、「藤女子大学将来構想会議」を立ち上げました。この会議体は、学長の諮問機関として、教員・事務職員10数名で組成され、ジェンダーバランスや教職員バランスなどに配慮し、今後の10年間、本学を担う教職員が構成員となっています。答申の期限は、2020年末として、広く教職員と審議内容を共有しながら、活発な議論を重ねています。こうした議論の中間報告として、2020年3月に中間答申をとりまとめ、学長に提出されました。

(3)-1. 主な教育・研究の概要

藤女子大学は、建学の理念および教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)を次の通り定めています。

1. キリスト教的世界観および人間観をよく理解し、愛の精神をもって、柔軟かつ誠実に行動することができる。(キリスト教的世界観及び人間観)

2. 文化の多様性に配慮し、現代社会の一員として主体的にその役割を果たすため、他者と円滑なコミュニケーションを行うことができる。(主体性・多様な人々と協働して学ぶ態度)
3. 現代社会における諸問題を理解するために、文学部、人間生活学部の各学科等の求めるそれぞれの専門分野の知識・技能を身につけ活用することができる。(知識・技能)
4. 授業で得た知識を自分の問題として捉えなおし、現代の諸問題に関連づけ、幅広く複眼的な視野をもって論理的かつ批判的に思考し、社会に発信することができる。(思考力・判断力・表現力)

この大学共通の方針のもとに、各学科、研究科、各専攻でそれぞれが目指す専門性を踏まえたディプロマ・ポリシーを定めています。

各学科、各専攻では、その教育目的を達成するため、それぞれにカリキュラム・ポリシーを定めて体系的な教育課程を編成しており、学部共通の基盤となる教養科目・外国語科目のカリキュラム・ポリシーは以下の通り定めています。

1.〔専門教育との連関〕

- ・本学の学生としての学修の質を全学的に保証するため、主として1・2年次に教養科目・外国語科目を配置し、各学科等における専門的学修の基盤となる素養や諸技能を養成する。

2.〔教養科目〕

- ・幅広い教養科目を「人間と宗教」「ジェンダー・キャリア形成」「人間形成」「リテラシー」の各区分に配し、広い視野や多角的な視点を養成する。

- ・能動的学修の確立をめざし、学修への高い意欲と主体的な態度を養成する。

3.〔外国語科目〕

- ・多彩な外国語科目を設け、個々の関心に応じた履修を可能にし、3・4年時に上級科目を置き、より高度な学修機会を提供することを通して、実践的な外国語コミュニケーション能力を養成する。

- ・海外留学プログラムおよび語学研修科目を設け、国際交流の機会を提供することを通して、異文化を理解し、国際的な視野をもって行動できる力を養成する。

学生の受け入れについては、大学共通に求める学生像として次の通りアドミッション・ポリシーを定めています。

- ・自分に備わった資質を磨き、さらに人間として成長しようとする人
- ・学問の探求に励み、知的好奇心を満たそうと努力する人
- ・現代社会の諸問題に関心を持ち、さらに視野を広げようと努力する人

・他者への思いやりを持ち社会や環境に貢献しようと努力する人

各学科では、それぞれにアドミッション・ポリシーとして、「学科のめざしているもの」「学科が求める人材」「高等学校で学んできてほしいこと」「アドミッション・ポリシーに基づく入試方法」を公表して、広く周知しています。

(3)－2. 2019年度の主な事業概要

1) 新学科の設置

2018年度に決定した、人間生活学部子ども教育学科の設置届出に関して、申請書類を取りまとめて、2019年4月に文部科学省に提出、同年6月に受理公表されました。

子ども教育学科は、保育学科を改組し、新たに小学校教員養成課程を加えて、乳幼児から初等教育全般の子どもたちの発達や学びの連続性を理解し、保幼小連携の役割を担える人材の養成を目的として、2020年4月に開設するものです。従来の保育士、幼稚園教諭、特別支援学校教諭の資格・免許の取得に小学校教諭の免許取得を可能としたこともあり、2019年度に実施した入学試験では、前年比7割増の志願者数となりました。

2) 教育課程の編成

2018年度に文学部が先行して実施していた全学共通教養科目について、2019年度は人間生活学部も同一の教育課程で実施しました。教養科目は、「人間と宗教」「ジェンダー・キャリア形成」「人間形成」「リテラシー」の各区分で両学部共通の科目編成とし、各学科の専門科目の基盤として、外国語科目と合わせて30単位を卒業要件としています。

文学部で実施している「藤 ACE プログラム(Fuji Academic and Career English)」は、2年目となり、多くの履修希望者を集め、プログラムの運用を通じて英語の向上と global competency の涵養に一定の成果を上げています。海外協定校への留学のための認定基準である IELTS 等外部英語試験のスコアについても、派遣予定数を超えた学生が基準を充たしてきています。

3) 研究力向上

教員の研究力の活性・向上を目的として昨年度に組成された研究力向上ワーキンググループの提言を受け、より具体的な規程等の学内整備のため、第2期研究力向上ワーキンググループを立ち上げました。また、教員の研究業績管理のシステム化を図るため、リサーチマップと連携した新システムを導入し、2020年度後期からの運用を目指しています。

教職員・学生の研究倫理教育については、文学部では、日本学術振興会・公正研究推進協会主催の「研究公正シンポジウム」に参加した学部長による報告講演を実施しました。また、人間生活学部では、外部から専門の講師を招いた研究倫理講演会を実施し、当日の講演模様をビデオ撮影してYouTube にアップし、教職員が閲覧共有できるようにしています。

4) 教育方法の改善

学生による授業改善のためのアンケート調査は、両学部のFD委員会が講義・演習等を区分した項目で実施しており、結果を集約して、文学部ではFDレターとともにホームページに公開しています。

卒業生に対する大学生生活満足度調査についても、昨年度から継続してIR専門部会によって実施しており、経年比較した結果について公表しています。

学生の学修状況調査については、昨年度から「大学IRコンソーシアム」に加入し、加盟大学の共通フォーマットで実施し、大学間での比較分析等を行い教育方法・教育環境の改善に取り組んでいます。2018年度実施した調査結果については、ホームページに公開しています。

5) 国際交流

2019年度から新たに、チェンマイ大学(タイ国)及びウエスタンワシントン大学(米国)でのインターン・ボランティア活動を含む短期研修プログラムを開設し、ウエスタンワシントン大学に4名の学生を派遣しています。

1年間の海外協定校留学者は、リーズ大学(英国)に1名、韓国カトリック大学・明知大学(韓国)に各1名を派遣し、半期留学ではカルガリー大学(カナダ)へ10名、輔仁大学に3名の学生を派遣しています。

夏季・春季休暇中の海外短期研修プログラムには、ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ(英国)に3名、グリフィス大学(豪州)34名、カルガリー大学(カナダ)10名、韓国カトリック大学13名、輔仁大学4名、米国と合わせて合計68名の学生を派遣しています。

この他、2020年2月に実施した人間生活学部海外研修には16名の学生が2名の引率教員とともにグリフィス大学での研修に参加しています。

なお、2020年3月に予定していました上海外国語大学(中国)及びミリアム大学(フィリピン)の短期研修等は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大のため中止としています。

6) 学生生活

花川キャンパスへの学生のアクセス改善のため、一部学生の自動車通学を許可制のもとに実施するため、2019年度後期にモニターを募集し試行的に安全確認等を行いました。2020年度より4年生を優先して実施するための規程等を整備しています。

学生のクラブ活動では、新たに「クッキングラボ」をクラブとして承認した他、「ホームサイエンス同好会」「Charm-北海道の魅力を写真・動画で伝える」の同好会が発足しています。第45回北海道女子学生剣道大会で「剣道部」が優勝しており、第37回全日本中国語スピーチコンテストでは、学生2名が暗唱の部優勝・弁論の部特別賞と朗読の部準優勝を挙げています。

7) キャリア支援

キャリア支援センターでは、学生ひとり一人に副ったキャリア形成を促し卒業後の就業等の進路に対する意識を初年次から高めるため、全学共通の正課科目として「女性とキャリア」を開講してきました。2019年度は、文学部の2年次開講科目として、「女性とキャリアⅡ」を新たに開講して、正課教育としてのキャリア教育の充実を図っています。

また、正課外でのキャリアサポートとして、本学固有の就職支援サイト「藤女子大学キャリアナビ(F-NAVI)」により、学生との双方向性をもった情報提供を行い、各種就職ガイダンス・セミナーをはじめとして、専門のキャリアアドバイザーによる個別相談会等多彩なプログラムによってキャリア形成を支援しています。

②進路就職状況

2020年5月1日現在

		卒業 者数 ※1	卒業後の進路					その他 ※2
			進学		就職			
			希望数	決定数	希望数	決定数	決定率	
文学部	英語文化学科	83	1	0	74	70	94.6%	8
	日本語・日本文学科	97	3	1	83	78	94.0%	11
	文化総合学科	85	1	1	73	69	94.5%	11
	小計	265	5	2	230	217	94.3%	30
人間生活学部	人間生活学科	63	0	0	62	56	90.3%	1
	食物栄養学科	79	0	0	71	70	98.6%	8
	保育学科	90	0	0	90	90	100.0%	0
	小計	232	0	0	223	216	96.9%	9
総計		497	5	2	453	433	95.6%	39

※1：年度途中の卒業者を含む。

※2：主婦・社会人を含む。

8) 学生の受け入れ

学生募集広報活動は、例年の通り春季・夏季・秋季の各オープンキャンパスに加えて、6月には北16条キャンパスで初めて文学部・人間生活学部合同の進学説明会を開催し、昨年度にも増して多くの受験生を集めることができました。また各高校や各地で開催される進学相談会等にも積極的に教職員を派遣するとともに、新たな広報媒体を通じた広報活動等に取り組んできました。

新設の人間生活学部子ども教育学科については、当該学科の専任教員が道内各高校を訪問し新たな学科の特徴等についてきめ細かに説明を行うなど積極的な広報活動を展開いたしました。

こうした取り組みもあって、2019年度に実施した入学試験の総志願者数は1821名と前年比110%となっています。

2020年度実施の入学試験からは、インターネット上のウェブ出願を導入予定です。また、人間生活学部人間生活学科及び食物栄養学科では、新たに総合型入学試験(従来のAO入試)を実施いたします。

9) 施設・設備

学内のネットワーク・インフラの整備・強化策として、インターネット系サーバー類をクラウドに移行・増強しました。また、事務系のPCも全て更新しています。

地震による倒壊の危険防止対策の一環として、花川キャンパスのブロック塀の一部について耐震改修を行いました。

花川校舎体育館の暗幕取替・床塗装等の整備を実施し、また経年劣化状況を調査するため躯体診断を実施しています。

(3)-3. 認証評価と中期計画

1) 認証評価

2016年度に受信した、公益財団法人大学基準協会による3回目の認証評価によって適合と認定された際に指摘された、改善勧告・努力課題の各1項目について、改善報告書を同協会に提出し受理されました。改善勧告となっていた、英語文化学科・保育学科の教授数については、不足していた各1名については2018年度に採用・昇任により充足しています。努力課題とされた、大学院人間生活学研究科の収容定員に対する在籍学生数比率が0.5を下回

っていたことについては、2018年度0.56、2019年度0.59と同比率が上回っています。

改善報告書の提出期限は、2020年度となっていました。いずれの指摘についても改善が果たされたため、期限前に提出したものであり、同協会からは、改善が認められるとして今後再度報告を求めることはない旨の検討結果がもたらされています。

2) 中期計画の進捗状況

藤女子大学未来共創ビジョンのもとに始めた第Ⅰ期アクションプランは、自己点検評価委員会を中心として3年間の活動と達成状況について総括的に点検・評価し、継続すべきものと新たな課題等を整理して、第Ⅱ期アクションプランを策定しています。

第Ⅰ期アクションプランにおいて、達成できたとする事項は、社会貢献推進会議を組成し、連続公開講座・講演会を実施したこと、e-learning や Active Learning の導入に向けた学内のWi-Fi環境整備等の数項目でしたが、多くの計画項目については、達成に向けてそれぞれの部局で継続して取り組んでいるもので、第Ⅱ期の期限内早期のうちに達成すべきものとしています。

第Ⅰ期アクションプランの点検・評価結果については、「藤女子大学 自己点検・評価報告書(2019)」として、本学ホームページに公表しています。

第Ⅱ期アクションプランは、2020年度から2022年度までの3年間に具体化するものとして、計画項目ごとに主な担当部局を決め、自己点検評価委員会を中心に都度、検証を重ね行くこととしています。また、計画の進捗状況については、年度ごとの自己点検評価報告書に取りまとめて、本学ホームページ等により公表いたします。

未来共創ビジョンと第Ⅱ期アクションプラン (2020～2022年度)



藤女子大学 未来共創ビジョン

- 未来を切り拓く藤(学びから創造力を養います)
- 信頼される藤(学生を守る環境を整えます)
- 個性の花咲く藤(チャレンジを応援します)
- 世界ではばたく藤(国際理解・交流を深めます)
- 地域とつながる藤(社会貢献を推進します)

未来共創ビジョンを具体化する第Ⅱ期アクションプラン

1. 教育

(1)入学前・初年次教育の充実

- a. e-learning の全学的な導入・推進により、入学前教育と初年次教育とを連結し、学習習慣を身に付けさせるとともに、専門教育につなげる。
- b. 初年次学生対象のオフィスアワー制度(アドバイザー制度)の充実を図る。

(2)学修支援体制の構築

- a. 学生個々の学修履歴の記録・振り返り等を支援する仕組みを構築する。
- b. Student Assistant の活動をより一層拡大し、学修支援活動への活用を図る。
- c. 履修相談や実習・ボランティア支援など、学生の多様な学びに応じた支援を可能にするセンター等による体制を整備する。

(3)国際交流の推進

- a. 国際社会で活躍できる人材の育成を目指した国際交流を推進するとともに、各種海外留学・研修プログラムの効果の最大化を図る。
- b. 教養科目における国際理解教育の充実を図る。
- c. 外国語カリキュラム改善策を検討、実行するとともに、英語運用能力養成の実効性を高める英語教育プログラムの充実を図り、その成果について検証する。

(4)GPA (Grade Point Average) の活用と成績評価の厳格化

- a. GPAを活用して、学生の学びの意欲を育てるとともに、学修成果の具体的な把握・評価方法を開発する。

(5)FD (Faculty Development) の強化

- a. FD委員会の活動を通じて組織的に教員の教育能力向上を図り、PBL(課題解決型学習)など Active Learning を積極的に導入し、学生の主体的な学習能力を育てる。
- b. LMS(Learning Management System)を積極的に活用し、課題提供などにより授業外学習時間の向上を図るとともに、学習成果の可視化(目標・指標化)を実現する。

2. 研究

(1)研究業績の評価

- a. 個々の教員が研究者としての自覚をもって研究することを促進するため、研究業績の公正な評価の保証と徹底化を図る。

(2)科学研究費等外部資金の申請・採択率向上への取り組み

- a. 外部資金獲得により研究を活性化させるための研究推進体制を構築し、申請手続きの補助体制を強化することにより、採択率の向上を図る。

(3) 研究成果の公開促進

a.研究成果を積極的に発信し、社会に還元するため、大学リポジトリの充実を図る。

3. 学生募集

(1)入試制度の検討および導入

a.入試日程・入試方法・会場等の課題を整理・検討し、入試制度の改善を図る。

(2)入試広報活動の強化

a.多様なツールを活用した学生参加型の広報を企画する。

b.オープンキャンパスの課題を整理・検討し、改善を図る。

4. 学生支援

(1)学生会・クラブ活動の活性化

a.活動する環境を整備するとともに、活動を促進するための方策を検討する。

(2)進路支援体制の充実

a.入学時からキャリア形成を意識できるよう、在学期間を通じた支援体制の充実を図る。

b.キャリア教育が学年の進行に合わせてスムーズに進むように、必要な科目や機会をさらに充実させる。

(3)保護者・保証人等との関係

a.学生の学修活動、大学生活を含む大学からの情報提供を充実させる。

(4) 学生のニーズに合わせた対応

a.多様なニーズに対応する学生支援の在り方について検討する。

(5)緊急時連絡体制の確立

a.台風など災害時等における学生との迅速な連絡・確認体制を構築する。

(6)奨学金制度の拡充

a.現行の奨学金制度の見直しを行い、優秀な人材確保と経済的支援の両面から新しい奨学金制度を創設し、学修支援の充実を図る。

5. 施設・設備

(1)安全なキャンパスの整備

a.災害等非常時における施設・設備の防災機能の強化を図る。

(2)有意義な学びを実現するための施設・設備の整備

a.キャンパスの学修環境改善・設備の充実を図る。

(3)快適なキャンパスの整備

a.食堂等を含めた福利厚生施設の充実を図る。

b.花川キャンパスの課題を整理し、施設の整備・改善を図る。

6. 社会連携・貢献

(1)地域社会に向けた取り組みの推進・強化

a. 公開講座・講演会等の企画の充実や効果的な広報のあり方についての検討を通して、社会貢献事業の定着と強化に努める。

b.大学施設・資源を活用し、地域社会の教育・活動を支援する。

(2)産学官連携事業の推進・活性化

a.大学教育における産学官連携に向けて体制を整える。

b.北海道における産業振興のためのボランティアの育成に努める。

c. Service Learning の導入について検討する。

(3)生涯教育の推進

a.生涯学習プログラムを構築し、社会人の学びをサポートする体制を整備する。

(4)高大連携の推進

a.高大連携の体制を整備する。

7. 管理・運営

(1)内部質保証の実質化

a.PDCAサイクルを着実に回すために、自己点検・評価機能を強化する。

(2)安全・安心な環境の整備

a.危機管理体制を見直し、災害発生時等に迅速かつ実質的に機能できる体制、マニュアル等を整備する。

b.ハラスメント相談に関する相談体制・規程などのさらなる充実を図る。

(3)組織改革の推進

a.教育改革に応じた教育組織・教職員組織の再構築を図る。

(4)IR (Institutional Research)の推進

a.本学の教育研究活動における諸情報を集約・整理・分析し、教育研究及び管理運営等を支援するデータの収集と解析結果の公表を行い、内部質保証における検証の役割を補完する。

(5)広報体制の構築と充実

a.広報担当部署の機能強化と積極的かつ効果的な広報のあり方を検討し、実施する。

(6) 教職協働の促進とSD (Staff Development) 活動の活性化

a.教職員における学内情報の共有を促進し、当事者意識を醸成する。

b. SD活動を組織化し、大学を取り巻く情勢・社会的要請に関する情報を共有するための学内研修等を実施し、教職員の資質向上を図る。

8. 学園内の連携強化

(1)同窓会(卒業生)との連携

a.同窓生との連携・交流促進について検討する。

(2)藤女子中学・高等学校との連携

a.藤女子中学・高等学校との連携・交流を強化する。

9. 財政計画

(1)教育研究活動の持続性を保障するための財政基盤の確立

a.授業料等、寄付金、補助金獲得等により安定的な収入基盤を確立する。

b.予算の執行状況を精査し、支出の最適化を図る。

※「藤獅子大学自己点検・評価委員会」の構成員

・学長(委員長)、副学長、学部長、研究科長、教務部長、学生部長、入試部長、事務局長、国際交流センター長、キャリア支援センター長、情報メディアセンター長、外国語教育研究センター長

学部及び大学院FD委員長、企画調整室員

(3)-4. その他

1) 地域社会への発信として次のような講演会・公開講座等を実施いたしました。

1)-1 公開講座(主催)

*キリスト教文化研究所秋の公開講座－教会と音楽－「パイプオルガンに親しむIX」

(講師 大野敦子)

*藤女子大学 QOL 研究所・自閉症援助技術研究会 公開講座

「応用行動分析(ABA)からの自閉症支援」 (講師 井上雅彦)

*2019年度人間生活学部公開講座「ケアマミマルシェ」(講師 松田剛史)

*2019年度人間生活学部公開講座「医療的ケア児の在宅介護の今を知る」

(コーディネーター 今野邦彦 講師 運上昌洋、上村喜明、関 友子)

1)-2 講演会等(主催)

* *藤女子大学未来共創フォーラム 2019* *

*私たちが語る女子大の魅力～女子大学の価値を改めて問い直す」

第1部 基調講演「今日の女子大の役割とは～全国女子大学連携ネットワークから～」

(講師 加藤千恵)

第2部 ワークショップ

(コーディネーター 宮本 奏)

*チャペルコンサート (ソプラノ 阿部 雅子 ハロック・ハーブ 西山 まりえ

パーカッション 濱元 智行)

*「人生100年時代を迎えて～今、次世代と共に生きる意味について考える～」

第1部 基調講演 「生物として生き抜く意味」(講師 藤井美穂)

第2部 シンポジウム 「私の#ハッシュタグ」「期せぬ出来事を好機へ」

「私のカラフルなキャリアストーリー」

(コーディネーター 隈元 晴子 シンポジスト 奥村 昌子

外崎 由香)

*英語文化学科 ニール・ホール氏 詩の朗読会

「A Poetry Reading by Neal Hall, M.D., Poet」 (朗読 ニール・ホール)

*英語文化学科児童英語講座

「Let's Enjoy English 英語で楽しもう！」 (指導 英語文化学科学生)

- * 英語文化学科公開講演会 「仮定を表す懸垂分詞からの意味分化」(講師 早瀬 尚子)
- * 英語文化学科 English for Kids 2019 (指導 英語文化学科学生)
- * 日本語・日本文学科特別公開講演会
「それは盗作なのか？—江藤淳・倉橋由美子論争における〈女の実感〉の問題—」
(講師 小平麻衣子)
- * 文化総合学科公開講演会 「戦国時代の社会と法」 (講師 平井上総)
- * 人間生活学科家庭科教育研修講座
「家庭でできる防災食～ローリングストック法で災害に備える～」 (講師 村田まり子)
「実践報告と交流」家庭科教育と防災-藤女子大学人間生活学科の実践から-
(講師 田中宏実)
- * * 2019 年度教職課程講演会 * *
- * 「外国にルーツをもつ生徒たちと過ごして-愛知県知立市立知立南中学校において-」
(講師 永坂美香)
- * 「市立札幌大通高等学校における渡日・帰国生徒の教育について」
(講師 山口千恵子)
- * 「これからの教師に求められる授業力と国際バカロレア」 (講師 高松 美紀)
- * 藤女子大学カトリックセンター公開講演会 「福音と私たち 神父様の貴重な体験から」
(講師 古里慶史郎)
- * カトリックセンター 「教皇ミサへのお誘い」
- * カトリックセンター 修道会創立 150 周年記念
「修道会創立者ムッター・M・アンゼルマの紹介DVD上映会」 (講師 永田淑子)
- * カトリックセンター クリスマス クラシックギター ミニコンサート (演奏 佐久間 力)
- * カトリックセンター講演会 「教皇フランシスコ その人生と訪日メッセージ」
(講師 藤盛一郎)

2) 研究奨励

本学の教育研究力の強化・促進のため、国内外の研究機関での研究を目的とする1年間の研究休暇(サバティカル)制度や競争的研究資金獲得を支援するための学内研究費など、教員の研究環境整備に努めています。

また、教員個々の研究力向上のための具体的な施策の策定を目的として、教職員による研究力向上ワーキンググループを立ち上げ、検討を重ねています。

本年度の教員の研究成果は次の通りです。

2)-1 教員の海外及び国内研修

所属	職名	氏名	研究課題	研究先(国)	研修期間
保育学科	准教授	青木 直子	「ほめ」を活用した子どもとの関わり	ミズーリ大学 (米国)	2019.8～ 2020.03

2)-2 科学研究費申請奨励費

所属	職名	氏名	研究課題
英語文化学科	准教授	ジェレミー・レッドリック	Data Mining the Bi-Lingual Corpus of Yoko Tawada
日本語・日本文学科	准教授	水口 幹記	前近代東アジアにおける自然認識と解釈の史的展開-術数文化からのアプローチ
英語文化学科	教授	井筒 美津子	「独り言」研究:タクソミーと言語横断的考察
英語文化学科	准教授	對馬 康博	主述のフレームの協働に着目した構文拡張現象と概念基盤の構築に係る認知言語学研究
文化総合学科	講師	上原 賢司	天然資源の正義についての理論的研究
人間生活学科	教授	和田 雅子	プロジェクトマネジメント学構築の可能性-知識体系比較の視点から-
人間生活学科	准教授	船木 幸弘	自己認識を深めるキャリア教育教材と教育研修プログラム標準化に向けた実証的研究

保育学科	准教授	今野 邦彦	肢体不自由教育における自立活動指導者の専門性に関する研究
------	-----	-------	------------------------------

2)-3 科学研究費採択課題（研究代表者及び研究分担者）

研究種類	氏名	研究課題
基盤研究(C)	副田 恵理子	アカデミックライティングにおける適切なリソース活用のための教材開発
基盤研究(C)	井筒 美津子	OV・VO 言語の方言に見られる類型横断的特性:文末に語用標識を伴う構文化を中心に
基盤研究(C)	伊井 義人	豪州・へき地小規模校の学習環境に関する研究ーエビデンス・教育資源・教員の観点から
基盤研究(C)	平井 孝典	19世紀フィンランドにおける資料保存の実務と後世への影響の基礎的研究
若手研究(B)	對馬 康博	使用依拠モデルに基づく萌芽的構文・橋渡的構文の創発に関する文法研究
基盤研究(C)	英 美由紀	「個人」から「政治」へー現代英語圏の女性向けポピュラーフィクションの可能性を探る
基盤研究(C)	岡崎 由佳子	難消化性糖質による大腸アルカリホスファターゼ誘導作用に対する栄養条件の影響と解析
基盤研究(C)	工藤 雅之	認知的参画を促す英語教育のための協働手法を中心とした教授方略の研究
若手研究	松村 良祐	愛を基点とした西洋中世における情念論の系譜理解と情念の再評価のための試み
若手研究	木本 理可	安全で効果的な至適運動強度の新規同定法ー心拍変動解析を用いた検討
基盤研究(A)	原 博	新規多機能糖質としてデザインされたイソマルトメガロ糖による生理作用とその発現機構
挑戦的研究(萌芽)	原 博	食後の消化管ホルモン分泌応答や栄養吸収の時空間的解析とその栄養学的意義

基盤研究(C)分担金	水口 幹記	東アジアにおける天文占知識の形成と伝播
基盤研究(C)分担金	揚妻 祐樹	言語の複層性に基づく日本語条件表現史の分析
基盤研究(B)分担金	種田 和加子	服飾からみる近代日本の育成—ハイカラと上品
基盤研究(B)特設分担金	和田 雅子	宗教言説にみるグローバル化の影響および宗教間の平和的対話構築の可能性
基盤研究(C)分担金	井筒 美津子	発話事象概念の認知的言語類型論研究
基盤研究(C)分担金	伊井 義人	グローバリズムにおける教育のサービス分野への転換過程に関する比較ガバナンス分析
基盤研究(B)分担金	石井 佑可子	全人的視座から情動知性を再考する:情動特性・生活領域に応じた情動面の賢さとは?
挑戦的研究(萌芽)分担金	高橋 真由美	保育における「子ども理解」形成のローカル・ダイバーシティ
基盤研究(C)分担金	木脇 奈智子	地方自治体における男性を対象とした男女共同参画の新たな政策モデルの開発
基盤研究(C)分担金	木本 理可	青少年における夜間睡眠と自律神経系活動の関連に関する研究
基盤研究(C)分担金	上原 賢司	プロフェッション倫理と市民倫理の相剋を活用した倫理教育のグローバル教材開発研究
基盤研究(A)分担金	平井 孝典	アーカイブズによる「地域力」再生と持続的社会の基盤創成研究

(4) 藤女子中学校・藤女子高等学校

【本校の教育の目標と特色】

本校は、豊かな教養と奉仕の精神を持った次世代を担う女性を育成するため、中高完全一貫教育、国際教育、女子教育という特色のある教育を実践しています。

カトリック学校としての自覚とアイデンティティを確立するため、職員会議や朝礼での祈り、教職員の掲示板「今日の藤」やデジタルサイネージ上で聖書の解説の掲示を継続しています。

【教育の充実と改革】

- 65分・5時間授業
2020年から始まる新しい大学入試制度にも対応した65分・5時間授業を始め3年目となり、生徒・保護者に満足の得られる質の高い教育内容の実現を目指しています。
- 設備の充実
生徒の主體的な学びのために、全館でWi-Fi環境を整え、クロムブックを合計で約200台整備しました。
- 教職員の授業の質向上
教職員の授業研修として相互の授業見学後のレポート、各自の授業実践のレポートを提出し、社会科の研究授業を行いました。
- 土曜日の活用
平日の授業時間確保のため模擬試験の一部を土曜日に行うようにし、また、保護者が鑑賞しやすいように合唱コンクールを土曜プログラムとして行いました。
また本校独自の行事として、表現力・判断力・思考力を身につけるために専門家の協力を得ながら、「こえとカラダのアソートプログラム」を実施しました。
- 進路指導の充実
多くの大学が参加した校内大学ガイダンス
中央大、同志社大、北大、札幌医大、室蘭工業大学、大谷大学の教授・学生による講演・講習・授業
現役の医師やOGによる講演会
中学生向けオリジナル進路テキスト『学問ヘススメ』を使用した指導等
- 女子教育の充実展開
日常の指導に加え、各学年でのマナー講座を継続して実施
- 国際教育
中学3年生希望者によるオーストラリア研修
高校1・2年生希望者による英国研修
英検2級以上の希望者による英国国立バンガー大学とのディスタンスラーニング
- 英検対策講座の実施
今年度から英検対策講座を実施して生徒の自発的な学習を促しました。
今年度3回で、校内から申し込んだ生徒の英検2次試験の合格率は92.4%。
合格者の内訳は、準1級 高校6名、2級 中学12名＋高校40名＝52名、準2級中学36名＋高校13名＝49名、3級中学50名＋高校2名＝52名 でした。
- ボランティア活動
学校祭でのシエラレオネ支援
東日本大震災・道内被災地支援

盲導犬協会支援
フィリピンへの支援活動
生活困窮者支援

- 評価について
生徒による授業アンケート、教師の自己評価を実施することにより、教職員の研鑽と授業の質的向上に努めることができました。
- 広報活動について
学習塾訪問、町内会との連携、その他道内各地における活発な広報活動を展開しています。
- 感染症関連・災害備蓄品について
災害時、生徒が帰宅困難となる場合を想定して、災害備蓄品を整備しました。また新型コロナウイルス感染症予防のため、マスクや消毒用のアルコール、次亜塩素酸水を整備しました。
- 寄宿生の増加
生徒は道内各地をはじめ、道外からも集まり、寄宿舎で生活する生徒が56名となりました。

【具体的な事業内容】

国際教育

- ・ オーストラリア語学研修(2019年7月30日(火)～8月10日(土))
アデレード市 参加者 中3 29名 ホームステイ
Our Lady of the Visitation School Dominican Primary School で語学研修、生徒交流
- ・ 英国研修(2019年7月24日(水)～8月5日(月))
英国国立バンガー大学 13名(高1 7名 高2 6名)
- ・ 英国国立バンガー大学 Distance Learning 高1・高2 9名

講演会

- ・ 佐竹輝洋氏(札幌市環境局) 高2対象
「持続可能な開発目標(SDGs)達成へ向けて～札幌市と共に取り組む中高生の活動を中心に」

体育的行事

- ・ 体育祭 つどーむ
- ・ 中学各学年遠足
- ・ 中学球技大会
- ・ 高校球技大会

校内行事

- ・ 中学合唱コンクール
- ・ 高校合唱コンクール
- ・ 学校祭・学園バザー
- ・ 中2カルタ大会
- ・ 中2宿泊研修
- ・ 中3英語暗唱大会
- ・ 高1修学旅行(11月)

- ・ 慰霊ミサ(11月)
- ・ ロザリオの祈り(5月・10月)
- ・ よき訪れの集い(保護者対象・年4回実施)
- ・ オーケストラ部第5回定期演奏会
- ・ 宣教クララ会シエラレオネ地区 Sr.吉田富美子氏によるシエラレオネのお話

特別教育

- ・ 朝礼時・終礼時の瞑目
- ・ 食前食後の祈り
- ・ 清掃指導
- ・ 省エネ教育
- ・ 中1「こえとカラダのアソートプログラム」
- ・ 中1 幼児とのふれあい体験(藤幼稚園)
- ・ 中1 修養会(本校)
- ・ 中1野外観察授業
- ・ 中1・中3 携帯電話・スマートフォン安全教室(KDDI)
- ・ 中1・2 盲導犬協会による学習会
- ・ 中2～高3 修養会(英語ミサ カトリック北1条教会)
- ・ 中3 特別プログラム(病院・道議会・気象台・一般企業等への訪問)
- ・ 中3 室蘭工大出張授業・金属の鑄造体験
- ・ 中3・自転車通学生 スケアードストレイト(自転車交通安全教室)
- ・ マナー講座
 - 中1:日常生活全般についてのマナー(『礼法』)、中2:和室・和食・洋食のマナー
 - 高1:和の佇まいに調和した行動、高2:洋食のテーブルマナー講座
 - 高3:立礼・挨拶・面接会場でのロール・プレイ
- ・ 高1 薬物乱用防止教室(北海道警察)
- ・ 高1 新大学入試についての説明会(ベネッセ)
- ・ 高2 ゲートDV(若者の間で起こる暴力)講座(札幌市市民文化局男女共同参画室)
- ・ 高2 東札幌病院による出前講義(乳がん・子宮頸がんについて)
- ・ 高2 特別講座「Blue Earth」塾
- ・ 高2 理系・難関大コース 同志社大学生命医科学部医工学科模擬授業
- ・ 高2 文系コース中央大学国際経営学部出張授業
- ・ 高3 特別授業(洋食のマナー)
- ・ 高3 修養会(「いのち」竹内修一神父様)

進路指導

- ・ 図書館の土曜開放
- ・ 進路指導室の充実
- ・ 中学アドバンス講座(中1・中2 英語・数学、中3 英語・数学・国語)
- ・ 中学数学演習講座
- ・ 高校進学課外授業
- ・ 漢字検定 英語検定 数学検定 校内受験指導
- ・ 難関大コース学習合宿(北海道芸術高等学校)
- ・ 高3 センター直前模試
- ・ 長期休みの自習室

- ・ 高校生1日薬剤師体験
- ・ 札幌医大説明会
- ・ 校内進路ガイダンス(ダイヤ書房)
- ・ 大学研究室訪問(北大 量子科学研究所)
- ・ 高1 臓器移植に関する講話(臓器移植推進団体)
- ・ 高2センター同日模試の幹旋(東進)
- ・ 中3～高2 希望者 特別講義(がんの個別治療 北大病院)
- ・ ふれあい看護体験(札幌東和病院・北海道脳神経外科記念病院)
- ・ 高校教室の受験案内本の充実
- ・ 卒業生メールアドレス登録制度の継続
- ・ 高校保育体験実習(ちあふるきた 北区子育て支援センター)

ボランティア

- ・ 中1・中2 北海道盲導犬協会への支援
- ・ 中3・高1 UNHCR 協会 シリア難民支援
- ・ 高2・高3 フィリピン・クヤセンター(路上生活の児童支援)
- ・ 高2 Blue Earth Project 食品ロスの問題を伝えるためのプレゼンテーションと「びっくりドンキー」提供のブロッコリースープの販売、及び手作りカイロのプレゼント
- ・ バスケット部 カードと花の種を「石巻復興支援ネットワーク」を通して石巻復興住宅へ(東日本大震災被災地支援)
- ・ 藤波会・ボランティア委員会 赤十字(バングラデシュ)への募金
- ・ 北区役所主催の母子支援企画「きたっこ夏祭り」ボランティア参加
- ・ 「ちあふる・きた 夏休みボランティア体験」参加
- ・ 北大サイエンスフェスティバル・実験ブースで科学部が協力
- ・ 宮の沢脳神経外科病院へ慰問・合唱部(クリスマスの歌合唱)

その他

- ・ 避難訓練
- ・ 寄宿舎避難訓練
- ・ 教職員研修会
庄井 良信氏(北海道教育大学教授・大学院学校臨床心理専攻長)
「揺れる生徒の心を聴く II ～傾聴と対話～」
- ・ 刺又講習会(北海道警察北署)

募集活動

- ・ 授業公開 (5月)
- ・ 塾対象入試説明会(5月)
- ・ 小6学習会(8月・11月)
- ・ 地方入試説明会(函館 苫小牧 旭川 帯広 釧路 北見)(5月)
- ・ 学校見学会・寄宿舎見学会 2回 (6月・10月)

(5) 各藤幼稚園

「藤学園の設置する幼稚園の状況と教育活動」

藤学園が設置する幼稚園は、北海道内の札幌、小樽、函館、旭川、苫小牧に5園と、道外では埼玉県草加市に1園、併せて6つの幼稚園を擁しています。

それぞれの幼稚園では、人間形成の基礎となる幼児期に一人ひとりの子供たちがもっている能力や特性などの可能性を開花させ、心と精神、そして身体の調和のとれた人として成長し、次代を担う人として最も大切な土台をつくるよう、支援に努めています。

特に、心を育てることに力を注ぐとともに、子供の自主性、独立心、知的好奇心を育む「モンテッソーリ教育法」を積極的に取り入れた教育活動を多くの幼稚園が実践しています。

なお、2015年からスタートした「子ども子育て支援新制度」に伴い、草加幼稚園を除き、2018年度から道内のすべての幼稚園が市町村から施設型給付を受ける幼稚園となりました。

「幼稚園の保育と教育の充実に向けた取組み」

各幼稚園では、キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供をかけがえのない存在として、また、それぞれに果たすべき使命を与えられた存在として大切に育てていますが、道内のすべての幼稚園では、シスターが不在となったことからカトリック札幌司教区からの協力を受け、宗教講師(チャプレン)の配置などにより宗教教育の充実に努めることとしています。

また、子ども達と直接接する教員は、豊かな人間性や優れた教育力を備えていることはとても大切なことと考えており、こうした人材の確保と研修などの機会を活用し、資質の向上や育成を図ることとしています。また、保育と教育環境の整備充実ににより、心身ともに健やかな成長を育むとともに安心安全で良質な保育と教育の提供に努めることとしています。

(6) 新型コロナウイルス感染症に関する対応

新型コロナウイルス感染症は、全世界に拡大し、WHO(世界保健機構)では、パンデミックが宣せられ、日本でも2020年4月17日には政府が緊急事態宣言を発しています。

本学園の各校・園の教育研究活動も、大きな影響を受けており、今までのところの対応について報告いたします。

藤学園は、学生・生徒・園児と教職員の安全を最優先として、各学校それぞれが、できうる限りの感染予防対策を実施しております。

藤女子大学では、卒業式・入学式を中止し、授業開始についてもオリエンテーション終了後

の予定をさらに5月7日に延期して、感染予防に対応するための教育環境の整備を進め、前期中の授業については、原則として非対面の遠隔授業を行っています。

藤女子中学校・高等学校では、行政の指導の下、卒業式・入学式は感染予防対策を徹底して執り行っており、新学期の授業につきましても、さらに生徒の安全を確保できるよう諸策を進めております。2020年度は、4月13日から5月10日まで休校にし、以降はオンラインによる教育機会を提供しています。

幼稚園各園につきましても、それぞれに園児の安全を第一義として、保育・教育に取り組んでおります。各園の事情に応じて、安全な対応を図っています。

この度のコロナ禍における感染拡大防止に向けて、藤学園として果たすべき社会的使命として捉え、学生・生徒・園児・教職員一人ひとりの不安を少しでも解消し、虚言に惑わされず、今こそ他者を思い遣る心を大切にして、現在の混迷を乗り越えてまいりたいと考えています。

自分を守ることは、他者を守ることとひとつなのだという意識を育てたいと思います。

【参考 2020年5月1日現在の学生・生徒・園児数】

藤女子大学

学 部	学 科	入学定員	入学者	収容定員	在籍学生数
文学部	英語文化学科	80	94	320	396
	日本語・日本文学科	80	119	320	403
	文化総合学科	80	93	320	396
	小計	240	306	960	1195
人間生活学部	人間生活学科	80	70	320	239
	食物栄養学科	80	76	320	339
	子ども教育学科	80	85	80	85
	保育学科	—	—	240	224
	小計	240	231	960	887
	大学合計	480	537	1920	2082

藤女子大学 大学院人間生活学研究科

専攻	入学定員	収容定員	在籍学生数	修士号授与
人間生活学専攻	8	16	5	
食物栄養学専攻	8	16	9	

藤女子中学校・藤女子高等学校

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	計
中 学	定 員	160	160	160	480
	実 員	131	111	125	367
高 校	定 員	160	160	160	480
	実 員	120	119	110	349

藤幼稚園 各園

区 分	札 幌	小 樽	函 館	苫小牧	草 加	計
定 員	140	90	150	145	120	645
園児数	95	62	89	113	45	404